

## 用語集

### A～Z

---

#### MICE (マイス)

多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。企業等の会議 (Meeting)、企業等が行う報奨・研修旅行 (Incentive travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、イベント・展示会・見本市 (Event、Exhibition) の頭文字をとっている。

#### MRO (エム・アール・オー)

整備、修理、分解点検の頭文字。  
Maintenance, Repair & Overhaul の略。航空機受託整備産業など。

#### NPO (エヌ・ピー・オー)

Non-Profit Organization. 民間非営利団体のこと。営利を目的とせず、公益のために活動する民間団体の総称。

## あ行

---

#### ウォーターフロント [water front]

過密化した都市部における新たな開発区域としての港湾や臨海部を指す。沖縄県では、那覇港の那覇ふ頭から新港ふ頭までの水際地区をウォーターフロントとして位置付け、親水性の高い海洋レクリエーション施設や遊歩道、緑地等の整備を一体的に進めることとしている。

#### オープンスペース [open space]

公園・広場・河川・農地など、建物によって覆われていない土地あるいは空地を総称している。

#### 沖縄科学技術大学院大学

国際的に卓越した科学技術に関する教育及び研究を実施することを目的に設立された5年一貫制の博士課程のみを置く大学院大学。沖縄の自立的発展と世界の科学技術の向上に寄与することを目指す。教員と学生の半数以上を外国人とし、教育と研究は全て英語で行われる。英語表記 (Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University) を略してOIST (オイスト) とも呼ばれる。

#### 沖縄振興開発計画

沖縄振興開発特別措置法に基づいて内閣総理大臣が決定する総合的な計画で、これからの沖縄の振興会初の向かうべき方向と基本施策を明らかにしたもの。第三次沖縄振興開発計画は、平成4年9月28日に決定され、平成4年度から13年度までの10か年が計画期間であった。

#### 沖縄振興計画

沖縄振興特別措置法に基づいて内閣総理大臣が決定する総合的な計画で、これからの沖縄の振興の向かうべき方向と基本施策を明らかにしたもの。平成14年度から平成23年度までの10か年が計画期間であった。

## 沖縄都市モノレール

平成 15 年に開業した那覇市字鏡水（那覇空港駅）－那覇市首里汀良町（首里駅）を 15 駅で結ぶ営業区間 12.9km の路線。愛称は「ゆいレール」。

## 沖縄西海岸道路

読谷村から糸満市に至る約 50 km の広域幹線道路。那覇空港自動車道、那覇空港、那覇港と西海岸地域の各拠点を連結させることで国道 58 号、国道 331 号などにおける交通混雑の緩和や地域の活性化等が期待される。

## 沖縄 21 世紀ビジョン

県民の参画と協働のもとに、将来（概ね 2030 年）のあるべき沖縄の姿を描き、その実現に向けた取り組みの方向性と、県民や行政の役割などを明らかにするために平成 22 年 3 月に作成された基本構想。沖縄県として初めて策定した長期構想で、沖縄の将来像の実現を図る県民一体となった取り組みや、これからの県政運営の基本的な指針となるものである。この基本構想を元に、平成 24 年度から平成 33 年度までの 20 か年を計画期間とする基本計画（21 世紀ビジョン基本計画）と、平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 か年を計画期間とする実施計画（21 世紀ビジョン実施計画）が作成された。

## か行

### 河川整備率

5 年から 10 年に一度程度発生する規模の降雨について、河川における洪水の氾濫の防御が必要な区域に対し、防御されている区域の割合。

### 環境共生型観光

沖縄が持つ観光資源（自然・歴史・文化）を活用するとともに、適切な保全にも配慮した観光のこと。

### 幹線道路

全国、地域または都市内において、骨格的な道路網を形成する道路。通過交通のワイ愛が高く、重交通、広幅員、高規格の道路であることが多い。

### 基幹バスシステム

バス専用レーンの導入や乗降性に優れた車両の導入等により、高い輸送力、走行性、快適性を備えた新たな交通システム。主要拠点を結ぶ定時速達性が高く多頻度運行の基幹バスと、その他の地域へのアクセスを担う支線バスによってネットワークを構築する。

### 既成市街地

一般には、都市において、道路が整備され建物が連担するなど、すでに市街地が形成されている地域。都市計画法において、明確に定義されている。（→参考：人口集中地区）

### 緊急輸送道路

地震防災対策特別措置法に基づく、災

害直後から必要となる緊急輸送を円滑かつ確実にを行うために必要な道路であり、高速自動車国道、一般国道及びこれらを連絡する幹線道路で、知事が指定する防災拠点等を相互に連絡する道路のこと。

## 区域区分制度

無秩序な市街化を防止し、計画的に市街化を進めるために、都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域とに区分して定めること。これを「区域区分」といい、いわゆる「線引き」と呼ばれる。これまででは都市計画の前提としてすべての都市計画区域において行う必要があったが、法改正により制度メニューのひとつとして区域区分の有無を沖縄県が選択可能となった。

## クリーンエネルギー [clean energy]

電気、熱、動力への利用に際して、温室効果ガスや環境有害物質の排出量が少ないエネルギーのこと。再生可能エネルギーや天然ガスのほか、発電時の排熱利用などの化石燃料の高度利用が含まれる。

## グリーン・ツーリズム [green tourism]

みどり豊かな農山漁村地域において農漁業体験や生活体験を行うことによって、その自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと。

## クルーズ船

乗客に船旅（クルーズ）を提供する旅客船のこと。平成 23 年度にクルーズ船を利用して来沖した外国人観光客数は 118,900 人で、全外国人観光客数

301,400 人の約 4 割を占めている。また、平成 23 年度に寄港したクルーズ船のうち約 9 割が台湾からの定期クルーズとなっているが、今後は中国などからの寄港増加が期待される。

## 景観行政団体

景観法に基づく景観施策を実施する地方公共団体のこと。平成 24 年 5 月 1 日現在、県内では沖縄県及び 19 市町村が位置付けられている。

## 景観計画

地域の良好な景観の形成に向け、景観行政団体が策定する計画。景観形成に関する基本方針や区域等が記載されている。平成 24 年 5 月 1 日現在、県内 9 市町村で策定されている。

## ゲートウェイ空港

国際及び国内の航空路線網の拠点となり、広域的な地域間を結ぶ玄関口となる空港。成田国際空港や関西国際空港は日本のゲートウェイ空港であり、サンフランシスコ国際空港は太平洋へのゲートウェイ空港といわれている。

## 下水道

主に市街地において下水を処理する施設。排水管、排水渠その他の排水施設、処理施設及びポンプ施設等の補完施設の総体をいう。集落排水施設や合併処理浄化槽等の生活排水事業と連携し、地域にあった処理方式により整備が進められる。

## 広域都市計画区域

複数の市町村でひとつの都市計画区域を構成している区域。平成28年4月現在、県内7都市計画区域のうち、那覇市を中心とする那覇広域都市計画区域（11市町村）、沖縄市を中心とする中部広域都市計画区域（5市町村）が広域都市計画区域である。

## 高次都市機能

都市機能のうち、日常生活圏域を超えた広域圏を対象とする施設などにより、多くの人々に教育、文化、医療、行政、産業、交通、情報等について質の高いサービスを提供できる機能のこと。

## コースタルリゾート [coastal resort]

多様なレクリエーションニーズに応えるとともに、地域振興に資するマリナ等を中心とした海洋性レクリエーションの拠点となる沿岸域のこと。

## 国際交流・貢献拠点

アジア・太平洋地域の平和と持続的発展への貢献を目指し、学術、文化、平和、人材育成などの幅広い分野における国際交流や貢献活動の拠点。

## 国際物流ハブ

拠点（ハブ）となる空港や湾港を中心に路線ネットワーク（スポーク）を展開させて貨物を中継することにより、従来の拠点間相互輸送よりも輸送効率を向上させた輸送方式をハブ・アンド・スポーク [hub-and-spoke] と呼ぶ。国際物流ハブとは、そのハブとしての輸送機能を

活用して、物の輸送・保管・荷役・包装・流通加工などの国際間の物流を効率的に行う機能を指す。

## コミュニティバス [community bus]

公共交通が不便な地域などで、高齢者や体の不自由な方にも安全で利用しやすく、地域住民の多様なニーズにきめ細かく対応する地域密着型のバスのこと。市町村が運行する一般路線がコミュニティバス路線となることもある。

## 混雑度（道路混雑度）

道路の混雑の程度を表す指標。道路の交通量を交通容量で除した値で示し、混雑度 1.0 を快適な旅行速度が維持できる限界とみなす。

## さ行

### 再生可能エネルギー

化石燃料以外のエネルギー源のうち永続的に利用することができるものを活用したエネルギーであり、太陽エネルギー、風力エネルギー、バイオマスエネルギー、水力エネルギー、海洋エネルギー等のこと。化石燃料（石油、石炭、天然ガスなど）やウランなどの鉱物資源を利用するものは「枯渇性エネルギー」という。

### 市街化区域・市街化調整区域

都市計画区域内で、すでに市街地を形成している区域及びおおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域を「市街化区域」といい、一方、市街化を抑制すべき区域を「市街化調整区域」という。

## 市町村の都市計画に関する基本的な方針（マスタープラン）

市町村が創意工夫のもと、住民意見を反映させ将来ビジョンを確立し、地域ごとの将来像など、都市計画法第18条の2に基づき定める方針。市町村が定める都市計画は、この方針に即しなければならない。

## 社会資本

道路や公園、下水道、教育施設等の公的基盤施設。

## 住区基幹公園

住民の生活行動圏域によって配置される比較的小規模な公園で、都市計画で位置づけられた、街区公園、近隣公園及び地区公園が含まれる。

## 住民参加

都市計画・まちづくりにおける住民参加とは、目標設定・計画策定・事業実施の各プロセスにおいて、地域住民が意思を反映させ、また計画の作成・決定・実施へ参画していく状態・プロセスをいう。これらの過程において住民の主導権が高いものは住民主体のまちづくりという言い方もある。

## 循環型社会

生産から流通、消費、廃棄に至るまでの物質の効率的な利用やリサイクルを進めることにより、資源の消費が抑制され、環境への負荷が少ない社会のこと。

## 省エネ住宅

省エネルギー住宅の略称。室内環境を一定に保ちながら、使用するエネルギー量を少なくできる住宅のこと。

## 人口集中地区

市区町村の境域内において、人口密度の高い基本単位区（原則として人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上）が隣接し、かつ、その隣接した基本単位区内の人口が5,000人以上となる地域のこと。英語の"Densely Inhabited District"を略して「DID」及び「DID地区」と呼ばれることもある。

## スマートハウス

1980年のアメリカ住宅建築業者組合研究機関（the National Research Center of the National Association of Home Builders）により提唱されはじめたコンセプトである。居住者のニーズに応じて照明や室温などを情報技術により最適化・コントロールする住宅。近年では太陽光発電システムなどを活用しエネルギーマネジメントを行うことでCO<sub>2</sub>の削減を実現する住宅のことを指すことも多い。

## スポーツ・ツーリズム [sports tourism]

スポーツを「観る（観戦）」、「する（楽しむ）」だけでなく、スポーツそのものを観光資源として捉え、他の地域資源や観光資源とも組み合わせることで、スポーツを通じた新たな旅行の魅力を創り出す観光スタイルのこと。

## た行

### 多自然川づくり

河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らし等との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息環境や多様な河川景観を保全・創出するために河川整備や維持管理を行うこと。全ての河川における基本的な方針であり、国場川、比謝川をはじめ県内各地で多自然川づくりが進められている。

### 地域地区

都市計画区域内の土地をその利用目的によって区分し、建築物などについての必要な制限を課すことにより、一体的かつ合理的な土地利用を実現しようとして定める都市計画法に基づく都市計画の種類の一つ。用途地域をはじめとして、特別用途地区、風致地区、臨港地区などがある。

### 地区計画

建築物の建築形態、公共施設その他の施設の配置からみて、一体としてそれぞれの区域の特性にふさわしい態様を備えた良好な環境の各街区を整備し、及び保全するための詳細な計画。住民意識の高まりに対応し、昭和55年に創設された制度。

### 長寿命化対策

一般的な建物・建造物の延命化に加え、点検・整備の効率化・高度化、コスト削減施策、新たな設計の考え方等を含めた対策のこと。

### 低・未利用地

本来、建築物などが建てられその土地にふさわしい利用がなされるべきと考えられる土地において、そのような利用がなされていない場合、これを一般に低・未利用地と呼ぶ。

### 鉄軌道を含む新たな公共交通システム

県民及び観光客の移動利便性の向上、中南部都市圏の交通渋滞緩和、低炭素社会の実現、県土の均衡ある発展を支える「骨格性」、「速達性」、「定時性」等の機能を備えた大量輸送が可能な公共交通システムのこと。沖縄県では、既存の道路空間やバス機能を活用した基幹バスシステムの導入等により、公共交通の利用環境の改善を図りつつ、鉄軌道等の導入に向けた取組を推進することとしている。

### 透水性舗装

雨水を地下に浸透させ、流出を防ぐ、水を通す舗装。

### 道路密度

都市計画施設として改良が行われた主要幹線道路、幹線道路及び補助幹線道路を市街地面積（用途地域面積）で除いた値で、市街地内道路網の整備水準を示す指標。

### 特定用途制限地域

用途地域が定められていない土地の区域（市街化調整区域を除く）内において、その良好な環境の形成または保持のため当該地域の特性に応じて合理的な土地利用が行われるよう、制限すべき特定の建

築物等の用途の概要を定める地域。

## 特別用途地区

用途地域内において、一定の区域を定め当該地区の土地利用にふさわしい土地利用の増進、環境の保護など特別の目的の実現を図るため、当該用途地域の指定を補完するもの。

## 都市化社会

都市への人口や産業等初機能が集中し、それに伴い市街地が拡大していく社会。

## 都市機能

文化、教育、保健・医療・福祉、商業、工業などのサービスを提供する機能や住居機能のこと。

## 都市計画区域

都市計画法その他関係法令の適用を受けべき土地の区域で、市町村の中心市街地を含み、かつ、自然的・社会的条件、人口・土地利用・交通量などの現状・推移を勘案し、一体の都市として総合的に整備、開発及び保全する必要がある区域。

## 都市計画マスタープラン（都市計画区域の整備、開発及び保全の方針）

県や市町村による都市計画の基本方針の総称。県が策定する都市計画区域の整備、開発及び保全の方針を「都市計画区域マスタープラン」といい、市町村が策定する都市計画の基本方針を「市町村マスタープラン」という。

## 都市公園等

都市公園法に基づいて供用する公園。

都市計画決定された公園以外の公園も含む。

## 都市構造

人や産業が集中する拠点の位置と、主要な人や物の流れによって形成されるネットワーク等から捉えた都市の骨格のこと。

## 都市的土地利用

都市生活または都市活動を営む都市的な土地の使いみちのこと。

## トランジットモール [transit mall]

一般の自動車交通を排除し、バス・路面電車等の公共交通機関のみを配するモール（歩行者用に造られた道路）。歩行者の快適性、安全性と交通手段の双方を確保することができる。

## な行

### 那覇空港自動車道

那覇空港と沖縄自動車道を結ぶ那覇市から西原町に至る約 18km の高規格幹線道路。当該道路の完成供用により、本島中南部及び北部圏域における観光、産業の振興や様々な地域振興プロジェクトに資することが期待される。

### 那覇空港の滑走路増設

那覇空港の年間乗降客数は、2010年に約 1400 万人となり、10 年前の約 1100 万人と比べ大きく増加しているほか、貨物取扱量も国際貨物ハブ事業を契機に大きく増加している。加えて、自衛隊機等

が離発着のために使用するなど、滑走路1本の空港としては国内で2番目に利用度が高く、年間離発着回数は処理能力の9割を超えており、2015年度頃には需要に対応できなくなることが懸念されている。また、不測の事態により滑走路が閉鎖された場合の社会経済全般への影響を回避することも重要な課題となっている。このため、那覇空港の沖合を埋め立て、現在の滑走路(3,000m)から1,310m離れた位置に2本目の滑走路(2,700m)を増設するための取組が進められている。

## 南部東道路

那覇空港自動車道(南風原南IC)から南城市の大里、玉城、佐敷を経由して、知念に至る延長約12kmの地域高規格道路のこと。

## ネットワーク [Network]

具体的な交通路線網の中から、細部路線を省いて抽象化した路線網を描いたものを指す。一般にネットワークは交点と路線区間の集合として表現でき、交点をノード、線をリンクを呼んでいる。ノードはいくつかのリンクに結びついており、リンクは必ず両端でノードに繋がる。

## ノーマライゼーション

### [normalization]

障害を持っている人も、家庭や地域と一緒に生活ができるようにする社会づくりのこと。

## は行

### パークアンドライド [park and ride]

都心部等での道路交通混雑を避けるため、都市の郊外部において自動車を駐車し、鉄道・バス等の公共交通機関へ乗り換える手法。また、バスへ乗り換える場合は、パークアンドバスライド、自転車を利用したものをサイクルアンドライドともいう。

## バス専用レーン

一般道路において、特定の時間帯あるいは終日を対象として、一部の車線をバス専用とする手法である。

## バリアフリー

障害者や高齢者等が生活する上で妨げになる物理的、精神的な障壁を取り去った障害者や高齢者等にやさしい空間のあり方。

## 万国津梁

「世界の架け橋」のこと。1458年に尚泰久(しょうたいきゅう)王の命で建造され、首里城正殿にかけられたと伝えられる「旧首里城正殿鐘」の銘文に「万国津梁」の文字がある。

## 風致地区

都市の自然的景観を維持するため、都市計画法によって定められる地域地区の一つ。指定された地区内では、建造物の高さや建ぺい率の制限などの規制を受ける。県内では、那覇市(2地区)、名護市(4地区)、うるま市及び南城市において指定されている。



## ポケットパーク [pocket park]

「ベストポケットパーク: vest pocket park」の略で、チョッキのポケットほどの公園という意味である。わずかなスペースを利用して都市環境を改善しようとするものである。最近では、密集した住宅地の中に設けられた小公園をポケットパークをいうことも多い。

## 文化産業

琉球舞踊、沖縄音楽、エイサー、空手、食文化、工芸、デザイン、コンテンツなど沖縄の文化的資源を活用した商品・サービス等を提供する産業分野。沖縄県では、伝統工芸産業や文化コンテンツ産業を含む文化産業の振興を図ることとしている。

## 平和の礎

糸満市摩文仁の平和祈念公園にある記念碑。沖縄の歴史と風土の中で培われた「平和のこころ」を広く内外に伝え、世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられた人々の氏名を刻んでいる。

## ま行

---

### マルチモーダル [multi-modal]

効率的な輸送体系の確立と、良好な都市環境の想像を目指した、道路・航空・海運・水運・鉄道など複数交通機関の連携交通施策のこと。

## 無電柱化

安全で快適な通行空間の確保、市街地や観光地の景観の向上、安定したライフラインの実現、情報通信ネットワークの信頼性向上を目的に道路上から電柱をなくすこと。地中の共同溝に電線類を収容する手法や裏通りから電線を引き込み表通りの電柱をなくす手法などがある。

## モビリティ [mobility]

個人の空間的移動の自由度を表し、交通計画・政策の指標となる。モビリティ指標の例としては、交通手段選択の制約や移動における速達性や快適性や安全性、所要時間の信頼性等がある。

## モビリティ・マネジメント

### [mobility management]

一人ひとりのモビリティ（移動）が、社会にも個人にも望ましい方向に自発的に変化することを促す交通政策。過度な自動車利用を抑制し、公共交通機関の適切な利用を促す。

## や行

---

## ユニバーサルデザイン

### [universal design]

障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインすること。

## 用途地域

都市における住居、商業、工業などの適切な配置による機能的な都市活動の確保を目的として、建築物の用途、容積率、建ぺい率、高さなどを規制・誘導する都市計画・建築規制制度のこと。

## ら行

---

### ライフスタイル [life style]

生活の仕方。生活様式。

### ライフステージ [life stage]

人の一生を少年期・青年期・壮年期・老年期などと分けた、それぞれの段階。

### ラムサール条約

水鳥の生息地として重要な湿地と湿地に生息する動植物の保護を目的とした条約。1971年にイランのラムサール（Ramsar）で採択された。沖縄県では慶良間諸島地域、久米島の溪流・湿地、名蔵アンバル、与那覇湾、そして漫湖が登録湿地となっている。

### 琉球王国のグスク及び関連遺産群

平成12年に登録された沖縄の世界遺産。今帰仁城跡、座喜味城跡、勝連城跡、中城城跡、首里城跡、園比屋武御嶽石門、玉陵、識名園、斎場御嶽で構成される。

### 臨空・臨港型産業

那覇空港や那覇港等の物流機能を活用した、ものづくり産業、流通加工等を行う配送業、倉庫業、機械等修理業、梱包業、その他サービス業などのこと。沖縄県では、臨空・臨港型産業を新たな

ーディング産業として位置付け、国内外から関連企業の誘致に取り組むこととしている。

### ロジスティクスセンター

#### [logistics center]

生産に必要な資材調達から生産、流通、消費地までの物の流れを最適化するための施設。多品種・大量の商品の在庫保管、仕分け、配送、流通加工など、物流管理に関する施設機能を一体として備える。